

追悼

故 二宮 忠 会員 (17 期)

2015 年 4 月 18 日逝去・82 歳

1981 年度 東京弁護士会副会長

1988 年度 日本弁護士連合会事務次長

1998 年度 東京弁護士会会長

2001・2002 年度 東京都弁護士協同組合理事長

2003・2004 年度 全国弁護士協同組合連合会理事長



誰からも愛された二宮忠先生

会員 山下 善久 (31 期)

1 吾々の敬愛する二宮忠先生が亡くなりました。

しかし、いまだに、先生が亡くなりましたことが、実感できない。先生は、現在も神田の事務所で仕事をされており、また、今日にでも私の携帯に「善久（ゼンキュウ）さん。食事にでも行かないか。」と電話が掛かってきそうである。

2 先生は、明治大学出身であり、明大法曹会の会長職にあった。

平成 23 年 6 月に明大法曹会の会長に就任されてから、「明大の創設は法律実務家養成が原点であり、今もそれは変わらない。」との信念のもと、司法試験の合格者を増すために明大法曹会は何ができるかを、法科大学院院長を交えて議論を重ねて来られた。その結果、昨年（平成 26 年）10 月 1 日に理事長直轄の明治大学法務研究所を設立することができた。同研究所の今後の活動を大変期待されており、それを見届けることができなく残念であったと思う。

3 私も、同じ大学で、先生の後輩であるが、先生とは研究室は違っていた。

先生との出会いは、先生が昭和 58 年明大法曹会の事務局長をされたとき、私も事務局長

の一人に参加させていただいたことからである。それ以来、私は、先生から「善久（ゼンキュウ）さん。」「善久（ゼンキュウ）さん。」と呼ばれ可愛がっていただくようになった。

4 私は、先生から二つのことを教えていただいた。

一つは、仕事であれ、何であれ引受けたことは全力で頑張ること。

このことを直接言葉で言われたわけではなかったが、先生が中途半端な頑張りを極端に嫌っておられたことから理解できた。

二つ目は、依頼者であれ、相手方であれ、誰に対しても上から目線で接するなということであった。

このことは、常日頃から言われていた。

上から目線での態度は傲慢そのものであり、誰に対しても謙虚に接するようにとのことであった。

先生から教わったこの二つを実行しようとするが、実際はなかなか難しい。先生の教えのとおり、傲慢でなく、何事にも全力で頑張ってみます。

先生、空から見守って下さい。

ご冥福をお祈り致します。